

「長陽憩いの家」の現状と

これからの取り組み

〈お問い合わせ〉役場 企画観光課 憩いの家係

TEL(68)00015

「南阿蘇村 長陽憩いの家」は、立野ダム建設に伴う旧長陽村地域整備計画の一環として、高齢者に対して介護支援機能および交流機能を総合的に提供することで、高齢者が「安心」して「健康」「明るい生活」を送れることを支援し、さらには福祉の増進を図ることを目的に建設されました。

当初は立野ダム完成後に建設の予定でしたが、立野地区からの強い要望を受け平成13年4月にオープン。以降、12年余にわたり地域住民の憩いの場としてその役割を担ってきました。

■減少していく利用者数
現在の利用状況は、村内の利用者が全体の約4割で、そのうち立野地区の利用状況は、オープン当初は利用者の約半数を占める割合で利用していたのですが、地域福祉の向上に貢献できていないのが現状です。総利用者数

においても、平成18年度の約5万7千人をピークに昨年度は約4万1千人に減少しています。

(下表参照)

また、歳出面では、長引く景気低迷、不安定な世界情勢による原油価格の高騰、さらには近隣町村への温泉施設等の増加により大変厳しい経営状態となっています。

そこで、憩いの家では経費削減(燃料費削減)などの改善策にも取り組み、多少の成果は上がったものの、昨年度はボイラーの老朽化に伴う入替などにより、約2千万円の赤字決算となりました。

このような経営状況を踏まえ、村決算監査においても毎年厳しい指摘を受けています。

■今後の取り組み

以上のようなことから、村としては今後の運営に当たり、施設存続の意義を十分考慮しながら、利用者へのサービスの充実、

利便性の向上さらには、管理運営経費削減などに取り組みでいきます。そして地域の意見を取り入れると共に、民間事業者などのノウハウや経営手法を活用することも検討し、今後の施設運営に活かしていきたいと思えます。

■最後に

これからも職員一丸となって精一杯努めていきますので、地域住民の皆さんをはじめ、村民皆さんのより一層の施設利用を願います。



憩いの家利用状況表 平成18年度～平成24年度

(単位：円)

年度	項目	総利用者数(人)	村内利用者(人)	1日平均(人)	村内利用者割合	歳入計	歳出計	赤字額
平成18		56,941	40,386	114	70.9%	13,173,404	26,201,902	▲13,028,498
平成19		55,998	38,865	110	69.4%	13,098,681	28,917,097	▲15,818,416
平成20		41,637	23,200	66	55.7%	12,218,582	28,497,094	▲16,278,512
平成21		40,473	20,724	59	51.2%	10,956,533	24,729,829	▲13,773,296
平成22		43,512	21,682	61	49.8%	11,889,266	26,576,330	▲14,687,064
平成23		42,662	20,453	58	47.9%	11,890,439	27,479,788	▲15,589,349
平成24		41,499	18,424	52	44.4%	11,664,447	31,392,187	▲19,727,740